

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472900719	事業の開始年月日	平成17年2月1日
		指定年月日	平成17年2月1日
法人名	有限会社 ぱすてる		
事業所名	どんぐり庵		
所在地	(〒243-0213) 神奈川県厚木市飯山2237-9		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年11月13日	評価結果 市町村受理日	令和3年2月5日

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・有限会社ぱすてるは、厚木市において、認知症デイ1軒、認知症対応型共同生活介護を2軒運営しております。代表は看護師で以前より認知症の方の行き場所が無いことを問題視しておりました。18年前に普通の民家を改造し定員10名の認知症デイを始めましたが、大勢の中で落ち着くことのできなかつたなかつた認知症の方が、この認知症デイでは落ち着きが見られ、職員と一緒に、その人らしい生活が出来る手ごたえを感じ、3年後にグループホームを始めました。当初から看取りを視野に入れての開設ですので、元気な方から車椅子の方、様々な方が生活しております。一人ひとりがその人らしい生活を送られるよう私たちは行えることを最大限に発揮していきます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和2年11月26日	評価機関 評価決定日	令和2年12月29日

新型コロナウイルス感染防止の観点から書類調査方式とする

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
◇医療と看取りに関する指針の実践
協力医療機関の医師と代表者である看護師が連携を図り、安心して医療を受診し健康相談ができる体制にある。多くの看取り介護を経験しており、利用者と家族に入居時に重度化指針を説明して同意を得ている。重度化した場合、医師、看護師、家族と今後の方針を話し合い、最善の対応をしている。

【事業所が工夫している点】
◇家族には、毎月利用者の「ご様子お知らせシート」を送付し、利用者の日々の状況を報告している。利用者の血圧、脈拍、体温などの健康状態、内科医の受診日も記載し、利用者のできること、できないことなどを手書きし、職員から見た日常生活の様子も記載して、暮らしの状況を知らせ家族の安心につなげている。

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの理解を深めること、日常生活に必要なことを、その方の状況に合わせて整えていくことを通して、いきいきとした生活を送る事が、出来るように考えている。	・理念は、開設時に運営法人の代表者が「利用者ができること、分かることを探し、したいことへの気持ちに寄り添うこと」と決め、玄関に掲示している。職員は、理念を職員会議や朝の申し送りで共有し、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や運営推進会議を通して、地域と交流を持っている。	・地元の神社への初詣出、子ども神輿の休憩場所提供、日本舞踊などのボランティアが来訪し交流している。 ・今年度はコロナ対応で全て中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、できることを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に1回、年6回行っている。地域の方にも参加して頂いている。施設内の取組みなど、報告している。	・運営推進会議は、地域代表、民生委員、地域包括支援センターと市役所の職員、利用者家族をメンバーとし、2か月毎に開催している。本年度はコロナ対応として、会議を持たず書面で事業所運営状況をメンバーに報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席要請や参加、議事録を渡すことなどをし、事業所の状況を伝えている。	・管理者は厚木市市民健康部介護保険課と連携しており、運営面や業務上について話し合い、相談をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯の為にしている。訴えがある時は、一緒に外へ出ている。「魔の三大ロック」については日頃から説明を受けている。	「拘束禁止委員会」を開催している。マニュアル「身体拘束等行動制限についての取扱要領」を用いて勉強会を持ち、「身体拘束禁止」の正しい理解に努めている。 ・玄関は防犯・安全の目的で施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で学ぶ機会はある。事業所内で職員による、不適切な言動があった場合は、注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての職員の知識は、十分ではない。後見人の方とは、連絡を取り合い、信頼関係を保てるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、時間をかけ、ていねいに説明を行っている。また、同意のサインもいただくようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とのコミュニケーションを大切にしている。スタッフが直接家族と接する事が多いが、意見があればメモに残している。	・家族の来訪時や手紙、電話などで要望を聞いて運営に反映している。本年度はコロナ対応で施設内に入ることを禁止しており、電話連絡時や玄関での利用者との面会時に意見を聞く機会を設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティングを設けているが十分ではない。	・管理者は、毎月のユニット会議や、朝・夕の申し送りのとき、職員の要望や意見を聞く機会を設けている。 ・ケアサービス向上の為の提案が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの役割において責任をもち遂行できるよう心がけているが不十分である。人員不足もあり決して環境が整っているとはいえない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足のためもあり、積極的に研修への参加はできていない。 実践者研修は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者については市内の事業者間の集まりなどに参加し、勉強会など行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画担当者、介護職員と面談し本人の思いを聞くように努めている。内容を多職員に伝える為、記録している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との面談時に家族とも顔を合わせ、家族が持つ希望やこれまでの事など何うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの要望を聞く事と、現在の状況から考察し、何が必要であるか課題を明らかにした上で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事を共に祝ったり、得意な家事を行ってもらったりしている。生活の中で職員が助けてもらったり教えられる事も多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在家族は建物内に入れない為、予約を取って、他の家族と一緒にならないように玄関内と外で1人5分とマスクをして十分な距離をとって会ってもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お散歩やドライブを通して、馴染みの場所へ行くようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・知人の来訪時に居室に案内しているが、本年度はコロナ対応で外部からの訪問を禁止している。 ・年賀状は本人に書いてもらっている。利用者の出身地や育った場所の名物を食べ、風景や思い出話をするなどの支援に努めている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会を皆で準備したり祝ったりする時には、一緒に入浴するなどして関わりを持ってもらっている。気が合わない同志は席を変えたり、職員が仲を取り持つなどして対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後なども相談事などには応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様、ご家族様のニーズを確認したうえで、サービスの意向を決定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の会話を通して、また意見表出困難な利用者の場合は表情や仕草などから思いや意向を把握している。 ・入浴時や居室でじっくり話を聞く機会を大切にしている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人がどのように暮らしてきたか、今後どのように暮らしていきたいかをモニタリングや日々の関わりの中で、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で情報を共有し、体調の変化に即、対応できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様、他関係機関からの意見や要望、情報を集約し、介護計画を作成している。	・家族、医師、看護師の意見を事前把握し、モニタリング結果を参考にしてカンファレンスを行い、計画作成担当者が介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたサービスの実践を展開している。職員間の申し送りや、個別介護記録を活かし、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるようにする、できるように考える、をモットーにし、ニーズに応じて対応出来るよう工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段はミニデイや地域の行事に参加し、地域との関係を続けながら生活出来るようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診は職員が付き添いをし、受診の前後には、御家族へ連絡する様にしている。かかりつけ医がある場合は、ご家族に付き添いをお願いしている。	・協力医療機関の内科医が毎週、歯科医は必要に応じて訪問診療し、結果は診療記録に記載して、職員間で共有している。従来のかかりつけ医には家族が付き添い、事業所が支援することもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時以外でも、日常の様子や変化等、報告や相談が24時間、連絡できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に入院する場合は、日頃から受信や往診を通し接点があり情報交換はスムーズに出来ている。他医療機関への入院は介護サマリー等の準備をしている。退院については担当医や看護師と話し合いの場を設けたり、家族と相談し、体制を整えた上で、受け入れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い、家族の意向をふまえ、今後のケアや方針を決める。全職員に、今後のケア方法や予測されていることを理解してもらい、支援している。	・入居時に「重度化における対応（看取り）指針と同意書」を説明し同意を得ている。重度化した場合は家族、医師、看護師と今後の方針を話し合い、適切に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	朝の申し送りで、緊急時の対応方法を学んでいる。緊急時対応マニュアルがある。順次、講習会にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時用食料は、十分な量を用意している。避難訓練では、良い点、悪い点をあげ、次につなげている。	・夜間想定を含めて年2回避難訓練を実施している。緊急時の自治体との協力体制が整っている。 ・飲料水、食料、防災品等3日分をリスト化し備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話をじっくり聞き、共感するように心がけている。排泄や更衣などは周囲に配慮しながら行っている。	・ 接遇マニュアルと研修で、職員は人格の尊重やプライバシーについて理解し共有している。 ・ 特に排泄失敗時や入浴時に人格を尊重した声かけをし、利用者が気持ちよく過ごせるように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時間やその日に着る服など、出来るだけ本人の生活習慣や希望に合うようにしている。本人が望む作業や家事などを提供したり、補助したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手を取って歩くとき、その人のペースに合わせて歩くよう、気を付けている。声かけをしながら歩いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく最近、着ていないだろう服装を選んで更衣を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方にも食器洗い等を手伝ってもらいスタッフから利用者の一方的な流れにならず双方向的な関係にしていきたい。	・ 食材の調達、調理は職員が行い、利用者は配膳、下膳など簡単な手伝いをしている。 ・ 職員は利用者の見守りや介助をしながら一緒に食事をしている。 ・ 行事食、誕生会で好みの食事を楽しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯まで決められた量がある場合は適格に守り、水分量は与薬時まで多く摂取してもらう工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が嫌がっても最低限の汚れは取る様になっている。又、利用者にも口腔ケアの意味を説明して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介助は最低限にし、利用者の残存能力を失わせないようにしている。	・排泄チェック表に沿って誘導し、介助は最小限にして自立への支援をしている。 ・夜間オムツの利用者も日中はリハビリパンツで過ごし、トイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとってもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	タイミングをみて、入浴への声かけをしながら行っている。	・週2回を基本としているが、利用者の希望に沿って入浴している。 ・入浴拒否の場合は無理強いせず、時間や職員を変えて支援している。 ・足が冷えやすい利用者には足浴もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝はあまり長い時間寝かしておかないよう気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の記録を見て薬の有効性について把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の意思や希望と必ずしも一致しないときがあるが、気分転換が出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、散歩くらいで外出等は禁止している。	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や気候に応じて散歩や外気浴をしている。 ・買い物、外食、理美容の利用等はコロナ対応で行っていない。 	コロナ対応で外出がままならないので、今後も継続して外気浴、事業所内歩行など体を動かして気分転換することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設で行っている。個人でお金を持っている方は、御家族の了解を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が自ら電話をかける事は無い。家族への年賀状作成は入居者が行っている。文字を書けない方もスタンプ押しやシール貼りで参加している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日入居者と一緒に掃除出来るところは行っている。困難な個所は職員が行っている。トイレは汚れたら随時掃除をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下、階段等の共用場所は職員と一緒に掃除をしている。 ・空調の調節は職員がしている。 ・利用者の様子の写真を掲示し、季節を感じる創作物を飾っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の座席は、気の合った利用者同士、トラブルにならない様に等配慮し、職員が決めたが各自定着している。静かに過ごされたい方はソファを利用されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた家具を持って来て頂き、出来るだけ違和感が無いようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・照明、エアコン、クローゼットが備えてあり、利用者は使い慣れた日用品を持ち込み、本人なりの飾りつけを工夫している。 ・利用者と職員が一緒になって季節に応じて衣替えをしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りと支援をしつつ、本人に出来る事をしてもらっている。物の配置には配慮している。		

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみこ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その方を知り、生活環境を整えて、本人の意思を大切にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や運営推進会議を通して、地域と交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、できることを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月実施されている運営推進会議で、地域の方々より意見をいただき行事やGHと地域の関わり方等話し合いが行われている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席要請や参加、議事録を渡すことなどをし、事業所の状況を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外に行きたいときは、一緒に行くようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	引継ぎ、ミーティング等の機会に話がでて見過ごされない様になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方とは連絡を取りあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、時間をかけ、ていねいに説明を行っている。また、同意のサインもいただくようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とのコミュニケーションを大切にしている。スタッフが直接家族と接する事が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とよく話をしているが十分ではない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの役割において責任をもち遂行できるよう心がけているが不十分である。人員不足もあり決して環境が整っているとはいえない		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足のためもあり、積極的に研修への参加はできていない。実践者研修は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者については市内の事業者間の集まりなどに参加し、勉強会など行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の生活歴等をご家族よりお聞きし、サービスを提供する迄に御本人の状態が把握できるよう書類を作成している。また、職員間で情報共有し御本人が安心できる環境を整備するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族には、GHを利用される事で不安に感じられている事等を話し合い、御家族の意思を傾聴し、なるべく近づけられるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は電話や面会時には職員を1人つけての対応、御本人の身体、精神等で不安定な時等、そのサービスも含めてお話ししている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食料品等の買い物をはじめ料理、盛り付け、掃除、洗濯等、少しでも出来る事を提供し、本人の生活の意欲向上に心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は誕生日会、イベントには御家族が参加できないが、常に面会を受け入れているので、御家族の都合でいつでも気持ちよく本人に会えるようにしている。（玄関での対応）		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状は本人に書いて頂いている。今までしてきた好きなことは引き続きしていただける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、出来る事、支援して出来る事等を把握し、お互いの関係に摩擦が起こりにくいような関わり合いができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後なども相談事などには応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居後のフェースシートを参考に暮らし方、意向を把握する。施設で生活を続けていくなかで、御本人との会話に耳を傾け、その中から、御本人の希望を把握するように努める。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェースシートにより、生活歴や馴染みの暮らし方を把握するよう努めている。又、家族の面会時にお話を伺い参考にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録（排尿、排便、バイタル、水分量）をチェック、心身状態を把握する。顔色、笑顔が見られるか、覇気があるか等々の把握をする。今出来ていることを把握し、生活能力が落ちないように支援に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ていると思います。 本人の意思、確認、本人がくらしやすい計画、介護計画をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の伝達、特記、引継ぎは業務日誌に記入。 個人の更に詳しい事は個人記録に記入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	“できるようにする” “できるように考える” をモットーにし、ニーズに応じて対応出来るように工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段では、ミニデイ、公民館祭、夏祭りの参加、作品出品など利用者と地域の親交があるが現在中止。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は、家族への連絡、受信後は家族に報告している。 受診の時は支援に気をつける事なども確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化や体調不良の時は、看護師に相談し、指示や訪問指導等を受けている。また異変があった場合は24時間連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に入院される場合、受信や往診を通じて接点があり、情報交換はスムーズに出来ていると思う。他医療機関への入院する際は介護サマリー等の準備を行い、退院時は担当医と看護師と話し合いの場を設けたり家族と相談し、体制を整え受け入れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	責任者から家族へ説明をして、今後どのようなケアをしていくかを家族と話し合う場がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等で話し合いをし、対応の仕方や勉強の場を設けている。見直しや意見交換を通じて意識向上をはかっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間帯、日中帯を想定して、避難訓練、消防との連絡訓練を実施している。災害時の備品の備蓄をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活、特にトイレ誘導や、排尿、排便の失敗、入浴中の洗いの時、一人ひとりの人格を尊重した声かけが出来る様、心がけている。又、プライバシーを損ねない様な対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物に行った時自分の食べたい物飲みたい物を聞いたり、品物等は選んでいただいたり、散歩の時、お茶等いろいろな場面でお話をして、本人の思いが言える様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から、入居者様の得意な事（例えば、ぞうきん縫い、床そうじ、選択干し取り込み、たたみ、各居室への配り、食事作り、食器洗い、野菜きざみ、散歩、ゴミ出し、草取り等々）一日の流れを作っている。夫々、得意分野がある。自然と皆行っている。希望等もあり、その日の気分や体調にも気をつけ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部の入居者様は化粧品を購入し、時々、口紅をつけているので続けるように支援している。 お風呂の着替えを用意する時、本人と一緒に選んでいただく。 美容室にも、髪カットに出かける。 外出する時の洋服は本人と職員で決めているが、なるべく本人の選んだ洋服を優先している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分で作った物は、より一層おいしく感じるよう、皆で関わられるよう支援している。その方に合わせた食事形態をとることや、メニューを変更したり、外食や行事食もみな楽しみにしている。食事中はテレビは消して、職員が入居者の間に入り、一緒にお話ししながら食べている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を個人ごとに把握し、目標量を摂取出来るように支援している。日常記録や業務日誌で個人ごとの体調や食事量など把握し、その時に対応した食事提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。自立されている方には声掛けし歯磨き出来ているか観察し、状況に応じて支援している。介助を要する方については口腔ケアを支援し汚れがないかチェックしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の状況を記録して、時間を見てトイレ誘導している。トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖、キナコジュース、乳製品等などの提供、マッサージ、運動、食事では食物繊維の多い野菜など提供、工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴予定表は組まれてはいるが、計画通りを強要するのではなく、御本人の希望（毎日入りたい、夕方に入りたい等々）に従って入浴して頂いている。 入浴拒否に関しては介護員のチームプレーにより、タイミングを見計らって入浴して頂けるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気が強い時、疲れ具合によって、居室やフロアソファで休んで頂いている。夜間、眠れない等の訴えがある場合、傾聴等の対応をして安心して頂けるように努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬について、職員が確認できる様にファイルに閉じている。声かけ等の支援をし、御本人が服薬を終えるまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴を把握し、調理、洗濯等以外にも、好きな事、やりたい事等、見守りながら生活の中での楽しみにして頂く様にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、日光浴や散歩等、体調や気候に応じて行っている。[誕生日等のイベントでも外食等は中止している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設で預かっているが、買い物等で御一緒した時は、お好きな物を買って頂く様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる入居者は電話をしている。 年賀状は、本人が出したい人に出せるように支援している。葉書の購入から投函まで、できるだけ入居者が行えるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は整理整頓し、廊下や階段等は入居者と掃除をし清潔感があるようにしている。フロアについては、大きなTVを準備し楽しめるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、自由に座れるようにしている。うさぎを飼っていて、餌やり等一緒に行っている。一人になりたい入居者がうさぎ小屋の前で休んでいることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や家具等自由に持ち込んでもらっている。身体状況によっては、布団からベッドに家族と相談し変更することがある。 家族の写真やお仏壇も自由に持ち込んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置により、自由に安全に移動ができるようになっている。野菜切り等、立つて行うことが難しい方には、テーブルといすを用意して行ってもらっている。		

目標達成計画

事業所名

どんぐり庵

作成日

令和2年12月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	拘束についてフロア全体で情報共有すべきことがある。(みみこ)	拘束についてフロア全体で情報共有する。	フロア全員で「拘束」について考え、その考えを共有する。	1ヶ月
2	34	急変や事故発生時に備え、共有できないことがある。(みみこ)	急変や事故発生時に備え、必要なことを共有する。	今後のミーティングで急変や事故発生時に備え、フロア全員で共有したいことを考え、それを実施、情報共有する。	3ヶ月
3	8	権利擁護に関する制度について、知識が十分ではない。	職員全員で、権利擁護に関する知識を得る。	権利擁護に関する資料を探して、ミーティングで情報共有する。	4ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。